

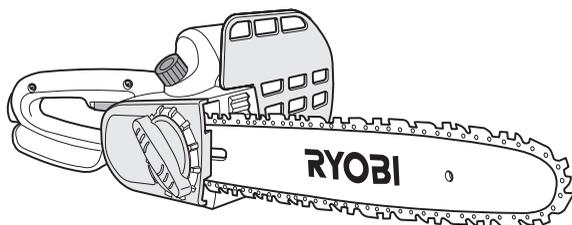
RYOBI

取扱説明書

チェーンソー（スレーキ付）

CS-3010SC

CS-3610SC



もくじ

■安全上のご注意	1～6
■各部の名称・仕様	7
■付属品・用途	8
■別販売品	8
■ご使用前の準備・点検	8～9
■操作方法	10～13
■切断作業	14～16
■保守と点検	17～18



このたびは、本製品をお買い上げいただきありがとうございます。

ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までよくお読みいただき、使用上の注意事項、本機の能力、使用方法など十分ご理解のうえで、正しく安全にご使用くださるようお願いいたします。

また、この取扱説明書は大切にお手元に保管してください。

安全上のご注意

- 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
 - ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みのうえ、指示に従って正しく使用してください。ご使用上の注意事項は「△警告」と「△注意」に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。
 - △警告：誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。
 - △注意：誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。
- なお、「△注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。「△警告」・「△注意」以外に製品の据付け、操作、メンテナンスなどに関する重要な注意事項は「△」にて表示しています。安全上の注意事項と同様必ず守ってください。
- 「電動工具」は、電源式（コード付き）電動工具を示します。
 - お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
 - 他の人に貸出す場合は、いっしょに取扱説明書もお渡しください。

警告

A) 作業環境

1. 作業場は、十分に明るくし、いつもきれいに保ってください。
 - ・ ちらかった暗い場所や作業台は、事故の原因となります。
2. 可燃性の液体・ガス・粉じんのある所で使用しないでください。
 - ・ 電動工具から発生する火花が発火や爆発の原因になります。
3. 使用中は子供や第三者を作業場に近づけないでください。
 - ・ 注意が散漫になり、操作に集中できなくなる可能性があります。

B) 電気に関する安全事項

1. 電動工具の電源プラグは、電源コンセントに合ったものを使用してください。電源プラグを改造したり、アースした電動工具と一緒にアダプタプラグを使用しないでください。
 - ・ 改造していない電源プラグと適切な電源コンセントを使用すれば、感電のリスクが低減されます。
2. パイプや暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫の外枠などアースされているものに身体を接触させないようにしてください。
 - ・ 感電するおそれがあります。
3. 電動工具は、雨ざらしにしたり、湿った、またはぬれた場所で使用したりしないでください。
 - ・ 電動工具内部に水が入り、感電するおそれがあります。
 - ・ 感電のおそれがあるので、ぬれた手で電源プラグに触れないでください。

警告

4. 電源コードを乱暴に扱わないでください。

- ・電源コードを持って電動工具を運んだり、電源プラグを抜くために引っ張ったりしないでください。
- ・電源コードを熱、油、角のあるところや動くものに近づけないでください。電源コードが損傷したり、からまって感電するおそれがあります。

5. 屋外で使用する場合、屋外使用に適した延長コードを使用してください。

- ・屋外使用に適した延長コードを使用すれば、感電のリスクが低減されます。

C) 作業者に関する安全事項

1. 油断しないで十分注意して作業してください。

- ・電動工具を使用する場合は、取扱方法、作業の仕方、周りの状況など十分注意し、常識を働かせて慎重に作業してください。
- ・疲れていたり、アルコールまたは医薬品を飲んでいる場合は、電動工具を使用しないでください。
- ・一瞬の不注意が深刻な傷害を招きます。

2. 安全保護具を使用してください。

- ・作業時は、常に保護めがねを使用し、必要に応じて、防じんマスク、すべり防止安全靴、ヘルメット、耳栓（イヤマフ）などを着用することで、傷害事故が低減されます。

3. 不意な始動は避けてください。

- ・電源プラグを電源コンセントにさし込む前に、スイッチが切れていることを確かめてください。
- ・スイッチに指をかけて運んだり、スイッチがオンになった電動工具の電源プラグを電源コンセントにさし込むと事故の原因になります。

4. 電動工具の電源を入れる前に、調整キーやレンチなどは、必ず取外してください。

- ・電源を入れたときに、取付けたキーやレンチなどが回転して傷害のおそれがあります。

5. 無理な姿勢で作業をしないでください。

- ・常に足元をしっかりとらせ、バランスを保つことで、予期しない状況でも適切に操作することが出来ます。
- ・材料を動かして加工する製品を除き、クランプや万力などを利用し材料をしっかりと固定して加工してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。

6. きちんとした服装で作業してください。

- ・回転部に巻込まれるおそれがあるので、だぶだぶの衣服やネックレスなどの装身具は着用せず、髪、衣服、手袋は回転部分に近づけないでください。
- ・長い髪は、帽子やヘアカバーなどで覆ってください。
- ・屋外での作業の場合には、すべり止めの付いた履物の使用をおすすめします。

警告

7. 集じん装置が接続できるものは接続して使用してください。

- ・集じん装置を使用することで粉じんの人体への影響を軽減できます。

D) 電動工具の使用と手入れ

1. 無理して使用せず作業に合った電動工具を使用してください。

- ・安全に能率よく作業するために、電動工具の能力に合った負荷で作業してください。
- ・小型の電動工具やアタッチメントは、大型の電動工具で行なう作業には使用しないでください。

2. スイッチに異常がないか点検してください。

- ・スイッチで始動および停止操作のできない電動工具は危険です。ご購入前にお買い上げの販売店に修理を依頼してください。

3. 意図しない電動工具の始動を防ぐために、次の場合はスイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

- ・電動工具の調整や刃物、砥石、ビットなどの付属品を交換する場合
- ・保管、または修理する場合
- ・その他危険が予想される場合

4. 使用しない電動工具は、乾燥した場所で、子供の手の届かない安全な所、または鍵のかかる所に保管してください。また、電動工具の操作に不慣れな方には電動工具を使用させないでください。

- ・不慣れな方のご使用は危険です。

5. 電動工具の保守点検をしてください。

- ・可動部分の位置調整および締付け状態、部品の破損、取付け状態、その他運転に影響を及ぼす全ての箇所に異常がないか確認してください。
- ・保守点検が不十分な場合、事故の原因になります。
- ・使用前に、保護カバーやその他の部品に損傷がないか十分点検し、正常に作動するか、また所定機能を発揮するか確認してください。
- ・破損した保護カバー、その他の部品交換や修理は、取扱説明書の指示に従ってください。
- ・取扱説明書に指示されていない場合は、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。
- ・スイッチで始動、および停止操作の出来ない電動工具は、使用しないでください。
- ・スイッチが故障した場合は、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。
- ・電源コードは定期的な点検し、損傷している場合はお買い上げの販売店に修理を依頼してください。
- ・延長コードを使用する場合は、定期的な点検し、損傷している場合には交換してください。
- ・握り部は、常に乾かしてきれいな状態に保ち、油やグリスなどが付かないようにしてください。
- ・安全に能率よく作業していただくために、刃物類は常に手入れをし、よく切れる状態を保ってください。

警告

6. 先端工具は、鋭利できれいな状態を保ってください。
 - ・ 先端工具を適切に手入れすることで、円滑な作業と容易な操作ができます。
7. 電動工具、付属品、アタッチメント、先端工具類は、作業条件や実施する作業に合わせて、それらの取扱説明書に従ってご使用ください。
 - ・ 指定された用途以外に使用すると、事故や故障の原因になります。
8. 極端な高温や低温の環境下では十分な性能を得られません。

E) 整備

1. 電動工具は、専門家による純正部品だけを用いた修理により安全性を維持することができます。
 - ・ 本製品は、該当する安全規格に適合しているので改造しないでください。
 - ・ 修理は、必ずお買い上げの販売店に依頼してください。
 - ・ 修理の知識や技術のない方が修理すると、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やけがのおそれがあります。

その他の安全事項

1. 損傷した部品がないか点検してください。
 - ・ 異常・故障時には、直ちに使用を中止してください。
そのまま使用すると発煙・発火、感電、けがに至るおそれがあります。
<異常・故障例>
 - ・ 電源コードや電源プラグが異常に熱い。
 - ・ 電源コードに深いキズや変形がある。
 - ・ コードを動かすと、通電したりしなかったりする。
 - ・ 焦げくさい臭いがする。
 - ・ ビリビリと電気を感じる。
 - ・ スイッチを入れても動かない。 等すぐに電源プラグを抜いてお買い上げの販売店に点検、修理を依頼してください。
2. 正しい付属品やアタッチメントを使用してください。
 - ・ この取扱説明書、および当社総合カタログに記載されている付属品やアタッチメント以外のものを使用すると、事故やけがの原因となるおそれがあるので使用しないでください。
3. 材料を加工する工具では、材料をしっかりと固定してください。
 - ・ 材料を固定するために、クランプや万力などを使用してください。手で保持するより安全で、両手で電動工具を使用できます。
4. 濡れた手で電源プラグに触れないでください。
 - ・ 感電のおそれがあります。

チェーンソーご使用に際して

先に電動工具として共通の警告・注意事項を述べましたが、チェーンソーをご使用の際には、さらにつぎに述べる警告・注意事項を守ってください。

警告

1. 使用電源は、必ず銘板に表示してある電圧で使用してください。
・表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に高速となり、けがの原因になります。
2. チェンソーを雨中や湿気の多いところで使用したり放置しないでください。
・感電のおそれがあります。
3. 使用中は、本体を確実に保持してください。
・本体がはね返り、けがの原因になります。
4. はしごや木に登って作業するなど、不安定な姿勢で使用しないでください。
・けがの原因になります。
5. 肩の高さより高い位置で使用しないでください。
・けがの原因になります。
6. 使用中は、軍手など巻込まれるおそれがある手袋は着用しないでください。
・回転部に巻込まれ、けがの原因になります。
7. ガイドバーの先端部での切断はしないでください。また、ガイドバーの先端部を枝や地面などに触れさせないように作業してください。
・本体がはね返り（キックバック）、けがの原因になります。
8. 使用中は、工具類（ソーチェン、ガイドバーなど）や切り屑などに手や顔などを近づけないでください。
・けがの原因になります。
9. 使用中、機械の調子が悪かったり、異常音がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い上げの販売店に点検・修理を依頼してください。
・そのまま使用していると、けがの原因になります。
10. 誤って落としたり、ぶつけたときは、工具類（ソーチェン、ガイドバーなど）や本体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。
・破損や亀裂、変形があると、けがの原因になります。
11. (事業者の方へ) 樹木を伐り倒す作業や伐り倒した樹木を切断する作業を行う場合は法、規則で定める特別教育を受けた人に行なわせてください。

関連法令	労働安全衛生法	第 59 条第 3 項
	安全衛生特別教育規程	第 10 条の 2
	労働安全衛生規則	第 36 条第 8 号および第 8 号の 2

⚠ 注意

1. 工具類（ソーチェン、ガイドバーなど）や付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。
 - ・ 誤った取付け方をすると、ガイドバーからソーチェンが外れ、けがの原因になります。
2. 護具を着用し、きちんとした服装で作業してください。
 - ・ そで口をきちんと閉めた作業服、チェンソー用下肢防護衣（防護ズボンなど）を着用。
 - ・ ヘルメットまたは規格に適合した帽子を着用。
 - ・ 足元保護のために滑りにくい安全靴。
 - ・ 保護めがねまたはフェイスガード。
 - ・ 巻込まれにくい防振性の高い手袋。耳栓、イヤマフなどの防音保護具着用。

※ 労働安全衛生規則が改正され、2019年8月1日以降、業務でチェンソーを使用する作業者は、チェンソー用下肢防護衣（防護ズボンなど）の着用が義務付けられています。
3. ソーチェンなどでコードを切断しないように注意してください。

万一、コードを傷つけたり、誤って切断した場合は直ちに電源プラグを電源コンセントから抜いてください。

 - ・ 感電のおそれがあります。
4. 使用しないときは、ガイドバーにチェンカバーをし、ソーチェンがむき出しにならないようにして、子どもの手の届かない所に保管してください。
 - ・ けがの原因になります。
5. スイッチを入れるとき、ソーチェンが材料や他のものに当たっていないことを確認してください。
 - ・ 本体が引っ張られたり戻されたりして、けがの原因になります。
6. 材料に石、釘などの異物が入っていないことを確認してください。
 - ・ ソーチェンが石などに当たると、けがの原因になります。
7. 切断材料は、確実に固定してください。また切落とし材に十分注意してください。
 - ・ けがの原因になります。
8. 切落とし寸前や切断中に材料の重みでガイドバーが材料にはさみ込まれないように、切断する部分に近い位置を支える台を設けてください。
 - ・ ガイドバーがはさみつけられると、けがの原因になります。
9. 本体を作動させたまま地面、床などに放置しないでください。
 - ・ けがの原因になります。

騒音について

ご使用に際し、周囲に迷惑をかけないように、各都道府県などの条例で定める騒音規制値以下でご使用になる必要があります。必要に応じてしゃ音壁を設けるなどしてください。

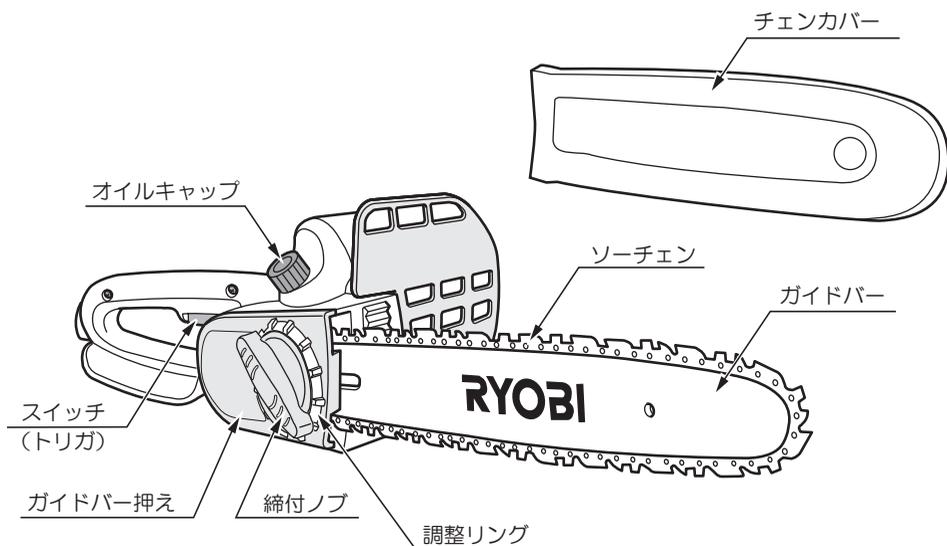
二重絶縁について

二重絶縁とは、電気回路と使用者の間が異なる2つの絶縁物により絶縁され、感電に対する安全性が高くなった構造を言います。このためアース（接地）する必要がありません。

この取扱説明書は、大切に保管してください。

各部の名称・仕様

●各部の名称



●仕様

モデル	CS-3010SC	CS-3610SC
電源	単相・交流 100V 50/60Hz	
定格電流	12 A	
消費電力	1,150 W	
チェンスピード	8.0m/s	
有効切断長さ	300mm	360mm
ソーチェン ^{※1}	91PX-45(ピッチ 3/8")	91PX-52(ピッチ 3/8")
本体寸法 (長さ×幅×高さ)	619 X 207 X 173mm	684 X 207 X 173mm
質量	2.9kg	3.0kg
絶縁方式	二重絶縁	
振動 3 軸合成値 ^{※2} EN60745-2-13 に基づき測定	2.8 m/s ²	2.6 m/s ²

※1 90 タイプのソーチェンは使用できません。

※2 『3 軸合成値の取扱い』については、日本電機工業会のウェブサイトで紹介しておりますのでご参照ください。

<http://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/powertool.html>

付属品・用途・別販売品

●付属品

- ・ チェンオイル 50ml …………… 1
- ・ ソーチェン（本体取付）…………… 1
- ・ ガイドバー（本体取付）…………… 1
- ・ チェンカバー（本体取付）…………… 1

●用途

- ・ 木材の切断

●別販売品

- ・ ヤスリホルダーセット（丸ヤスリ 150x4mm、ヤスリ柄、ヤスリホルダー）
- ・ 丸ヤスリ（150X4mm）
- ・ 平ヤスリ
- ・ チェンソーシャープナー
- ・ チェンオイル（100ml）
- ・ チェンオイル（1000ml）
- ・ デブスゲージジョインタ



- ・ 別販売品は純正品をお買い求めください。
別販売品の詳細につきましては、総合カタログを参照していただくか、お買い上げの販売店へお問い合わせください。
- ・ 別販売品は予告なく変更することがあります。

ご使用前の準備・点検

●延長コードについて



- ・ 延長コードは損傷のないものを用意してください。

- ・ 電気が流れるのに十分な太さのできるだけ短いコードを使用してください。
下表は使用できるコードの太さ（導体公称断面積）と、最大の長さです。

※ 延長コードを使用すると能力が低下します。

コードの太さ	最大長さ
1.25mm ²	15m
2.0mm ²	30m

●作業する場所に関して

- ・ 作業場は整頓をし、明るくしてご使用ください。

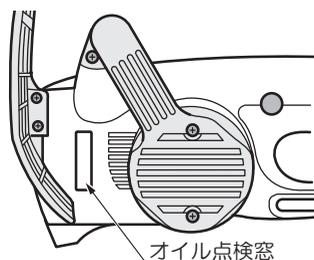
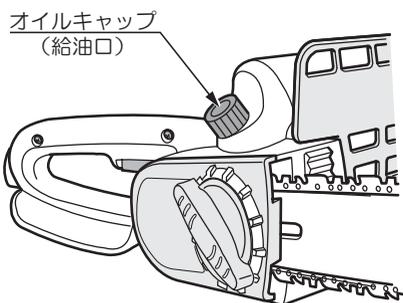
●漏電しゃ断器設置のおすすめ

- ・ 本製品は二重絶縁構造ですので、法律により漏電しゃ断器の設置が免除されていますが、万一の感電防止のために、定格感度電流が 30mA 以下の漏電しゃ断器の設置をおすすめします。

ご使用前の準備・点検

●チェーンオイルの給油

- ・本機は検査後、チェーンオイルを抜いて出荷しています。ご使用前に必ず、オイルキャップを取外し、オイルタンクに付属のチェーンオイルを入れてください。
- ・本機はスイッチを入れるとソーチェン、ガイドバーに自動的にチェーンオイルが給油されます。
- ・作業条件によりますが、稼働時間 15 分を目安にチェーンオイルを補充してください。作業中も時々オイル点検窓にてオイルタンク内のチェーンオイルの量を確認し、オイル点検窓からオイルが見えなくなりましたら、補充してください。



オイルタンクの容量は約 70ml です。チェーンオイルの入れすぎに注意してください。給油口から溢れ出てしまいます。



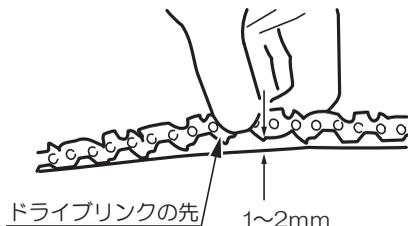
- ・チェーンオイルは別販売品のチェーンオイルまたは市販のチェーンオイル、エンジンオイル(夏場: SAE30、冬場: SAE10)を使用してください。



- ・オイルタンク、チェーンオイルにゴミなどが入らないように気をつけてください。ゴミなどの異物が入ると、故障の原因になります。
- ・オイルの種類によっては、プラスチック製の本機枠に悪影響をおよぼすことがあります。必ず、指定のオイルをご使用ください。

●ソーチェンの張り具合

- ・ソーチェンの張り具合を確認してください。確認方法はガイドバーの中ほどでソーチェンを軽く指で引上げ(本体が浮かない程度)、ドライプリングの先がガイドバーから 1~2mm 離れる程度が最適です。調整が必要な場合は、ソーチェンの張り調整(10~11 ページ)の要領で行なってください。



操作方法

●スイッチの扱い方

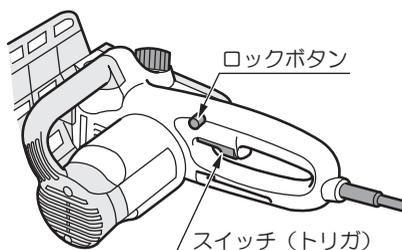
⚠ 警告

- ・使用電源は、銘板に表示してある電圧で使用してください。表示を超える電圧で使用すると、回転が異常に高速となり、けがの原因になります。



両手でハンドルを保持してからスイッチを入れてください。

- ・スイッチ操作は、ロックボタンを押した状態でトリガを引くと入り（セフティスイッチ）、放すと切れます。周囲に十分注意してスイッチを入れてください。
- ・スイッチを切るとソーチェンがすばやく停止するブレーキ付となっております。



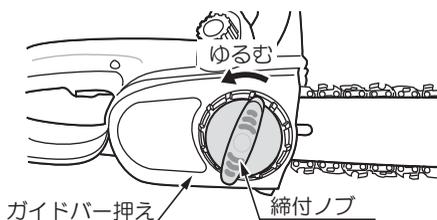
●ソーチェンの張り調整・交換

⚠ 警告

- ・ソーチェンの張り調整・交換のときは、スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。不意な始動によるけがの原因になります。
- ・ソーチェンは取扱説明書に従って正しく取付けてください。誤った取付け方をすると、ガイドバーからソーチェンが外れ、けがの原因になります。
- ・ソーチェンは仕様に明記してある正しいタイプのものを使用してください。誤ったタイプを取付けるとガイドバーからソーチェンが外れ、けがの原因になります。

●ソーチェンの張り調整

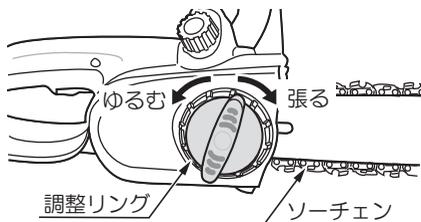
1. 締付ノブを1.5～2回転程度、矢印（ゆるむ）方向に回してゆるめます。



操作方法

2. 調整リングを右に回すとソーチェンが張り、左に回すとゆるみます。

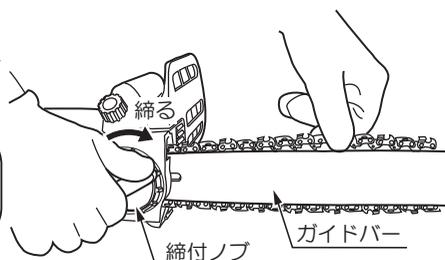
- ・ゆるめるときは、ソーチェンを軽く引上げながらゆるめてください。
- ・張るときは、ソーチェンの張りをゆるめてから、張る方向に調整リングを回して調整してください。張り過ぎたときは、一度ゆるめてから再度調整してください。



3. ガイドバーを上を持ち上げながら、締付ノブを十分締付けてください。

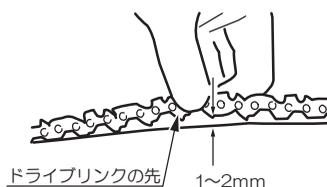


調整後は、締付ノブが十分締まっていることを確認してください。



適切なソーチェンの張り具合について

- ・締付ノブを締付けると、ソーチェンの張りが強くなりますので、締付ノブを締付けた後、次のような状態になるように調整してください。ガイドバーの中ほどで、ソーチェンを軽く指でつまんで本体が浮かない程度に引上げてください。このとき、ドライブリンクの先からガイドバーまでが1～2mm離れていれば適切な状態です。

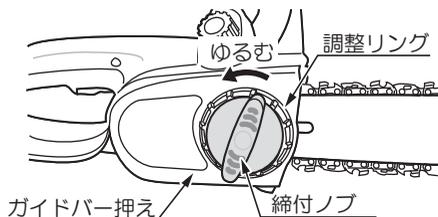


- ・新品時のソーチェンは多少の伸びがあります。少し使用した後、再度点検を行なってください。必ず電源コンセントから電源プラグを抜いて調整を行なってください。再調整の必要がある場合は、前述の要領でソーチェンの張りを調整します。

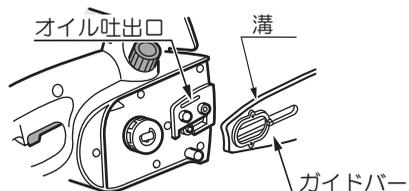
●ソーチェンの交換

(取外し)

1. 締付ノブを手で左に回して外し、ガイドバー押えを取外すと、ガイドバー、ソーチェンは簡単に外せます。



ソーチェンの取外しの際には、オイル吐出口、ガイドバー溝およびその周辺の切粉を取除いてください。切粉などがたまっていると故障の原因になります。



(取付け)

1. ガイドバーの先端からソーチェンのドライブリンクをガイドバーの溝にはめ込み、他端のドライブリンクをスプロケットにはめ込みます。



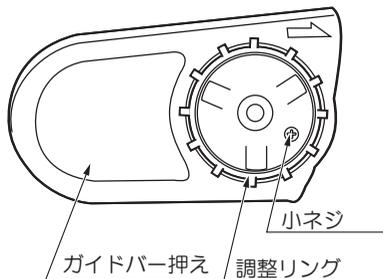
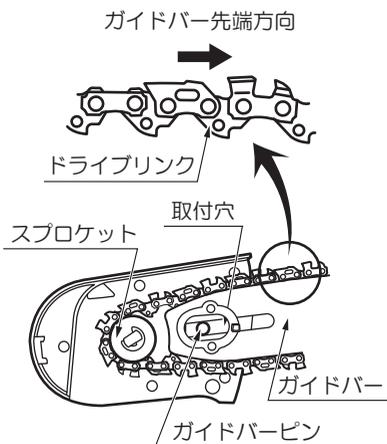
ソーチェンの刃の向きに注意してください。

2. ガイドバーの取付穴にガイドバーピンを合わせてソーチェン、ガイドバーをセットします。

3. 調整リングの小ネジを右図の位置に合わせ、ガイドバーを押えた状態でガイドバー押えを取付けます。

締付ノブを取付け、右に回して軽く締付けてください。

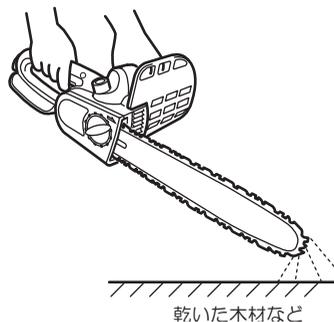
4. 「ソーチェンの調整」1～3の要領でソーチェンの張り調整を行ないます。



操作方法

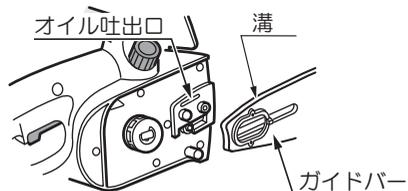
●オイル吐出確認

- ・スイッチを入れ、右図の様にオイルが出ていることを確認してください。



- ・2～3分回転させてもオイルが出ない場合には、ガイドバー、ソーチェンを取外し、オイルの吐出口周り、ガイドバー溝およびその周辺を清掃してください。

(●ソーチェンの交換 12 ページ参照)



切断作業

警告

- ・使用中は両手で確実にハンドルを保持してください。本体がはね返り、けがの原因となります。
- ・ガイドバーの先端部での切断はしないでください。また、ガイドバーの先端部を枝や地面などに触れさせないように作業してください。本体がはね返り（キックバック）けがの原因になります。
- ・使用中は、ソーチェン、ガイドバーや切り屑などに手や顔などを近づけないでください。けがの原因になります。
- ・使用中は、軍手など巻込まれるおそれがある手袋は着用しないでください。回転部に巻込まれ、けがの原因になります。
- ・肩の高さより高い位置で使用しないでください。けがの原因になります。

注意

- ・保護具を着用し、きちんとした服装で作業してください。
 - ・そで口をきちんと閉めた作業服、チェンソー用下肢防護衣（防護ズボンなど）を着用。
 - ・ヘルメットまたは規格に適合した帽子を着用。
 - ・足元保護のために滑りにくい安全靴。
 - ・保護めがねまたはフェイスガード。
 - ・巻込まれにくい防振性の高い手袋。耳栓、イヤマフなどの防音保護具着用。
- ※ 労働安全衛生規則が改正され、2019年8月1日以降、業務でチェンソーを使用する作業者は、チェンソー用下肢防護衣（防護ズボンなど）の着用が義務付けられています。
- ・スイッチを入れるとき、ソーチェンが材料や他のものに当たっていないことを確認してください。本体が引っ張られたり戻されたりして、けがの原因になります。
- ・切断材料は、確実に固定してください。また切落とし材に十分注意してください。けがの原因になります。
- ・切落とし寸前や切断中に材料の重みでガイドバーが材料にはさみ込まれないように、切断する部分に近い位置を支える台を設けてください。ガイドバーがはさみつけれらるとけがの原因になります。



- ・切断を行なう前にソーチェンの張り具合およびび、チェンオイルが出ているか確認してください。
- ・チェンオイルが飛散しますので、作業に適した服装を着用してください。
- ・無理に押しついたり、切断中にこじたりすると機械各部の故障の原因になります。無理なく、まっすぐに切断してください。
- ・ブレーキ付モーターのためスイッチを切った時に、モーターケース後部で火花が見えることがありますが異常ではありません。

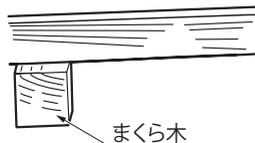
切断作業

●切り方の基本

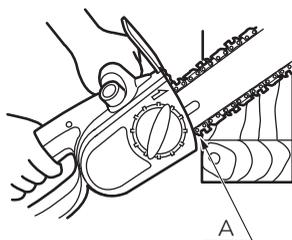
1. 切断材の下にまくら木を敷き、地面から出来るだけ離して固定してください。



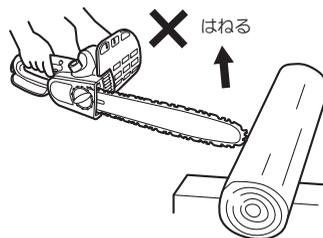
地面に近すぎますと、切断後地面にソーチェンが当たり、ソーチェンを傷付けたり、小石などをはね上げるだけでなく、チェーンソー本体が跳ね返ることもあります。



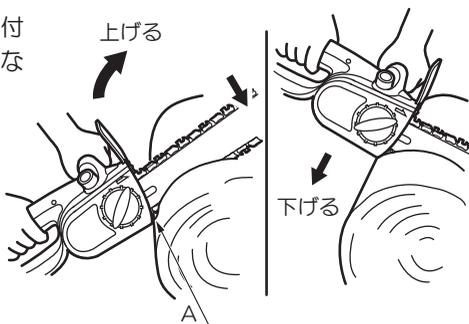
2. スイッチを入れてソーチェンのスピードを上げた後、ガイドバーのつけ根付近(右図 A 部分)を切断材に静かに当ててください。



先端切りは、チェーンソー本体がはね返ることもあるため、安定した作業ができません。必ずガイドバーのつけ根付近で切断してください。



3. 大きい材料の場合は、ガイドバーのつけ根付近(右図 A 部分)を支点にテコ運動をしながら切断してください。



●伐木作業（樹木を伐り倒す作業）

⚠ 警告

- ・ 伐木作業（樹木を伐り倒す作業）や造木作業（伐り倒した樹木を切断する作業）を行なうときは、法、規則で定める特別教育（講習）を受けたり、お買い求め先に相談するなどして適切な指導を受けてください。
- ・ 伐木作業を行なうときは、必ず二人以上で作業を行なってください。

1. 伐り倒す木の傾き、大きな枝の位置、風向きなどを考慮し、倒す方向、避難する方向を決めます。

2. 伐り倒す木の周囲の障害物を取除き、足場の安全を確認します。伐り倒す木が斜面にある場合は、必ず山側に安全な足場を確保してください。

3. 図に示すように伐り倒す方向に直径の1/3程度の切込みを①、②の順に入れ受口を作ってください。

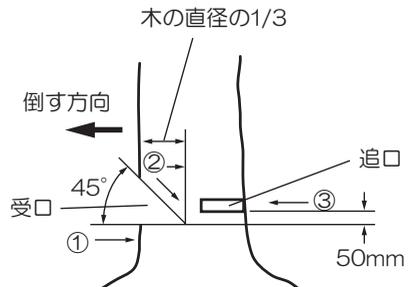
4. 受口の水平部より約50mm上部に、受口の水平部と平行に追口を切込んでください。

5. 追口の切込みが樹心を越えますと木が倒れ始めます。木が倒れ始めましたら、切口よりチェーンソーを離し、その場にチェーンソーを置いて避難してください。

6. 木が所定の方向に倒れそうもない場合やソーチェン、ガイドバーが挟まれたときは作業を中止し、追口にクサビを入れて倒れる方向を矯正したり、ソーチェン、ガイドバーが挟まれないようにしてください。



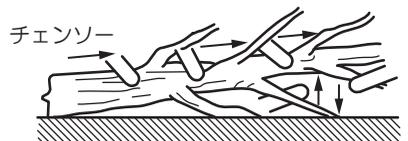
木の倒れる範囲



●枝払い作業

1. 倒した木の枝払いは、まず上部、側面の枝を一方方向より切落としてください。

2. 幹を支えている大きな枝を残し、地面側の枝を下側より切落としてください。



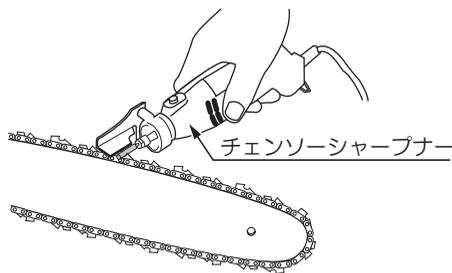
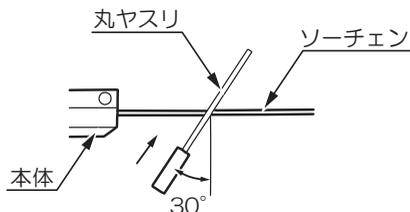
保守と点検

警告

- ・ 保守、点検、部品交換などのお手入れの前に必ずスイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いてください。けがや感電の原因になります。

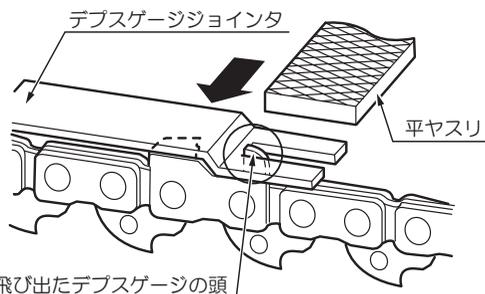
●ソーチェンの目立

- ・ 目立は自分でできます。別販売品の丸ヤスリ（4mm）またはチェーンソーシャープナーで左右のカッタの角度に注意し、目立をしてください。（右図）仕上げ角度は、下図のようになるのが理想的です。



(デプスゲージジョインタ)

デプスゲージジョインタをソーチェンの上にかぶせます。デプスゲージが高すぎる場合には溝からデプスゲージの頭が出ます。溝から出ている部分を平ヤスリで削り落とし、適切なデプスゲージ高さに調整します。



●各部取付けネジの点検

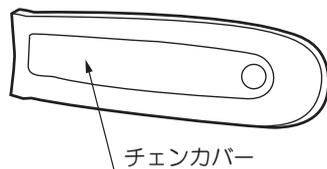
- ・ネジなどのゆるみがないか確認してください。もし、ゆるみがある場合は締直してください。

●使用後の手入れ

- ・使用後は、ソーチェンを回転させ、油を十分まわしておいてください。
- ・油污れなどをふき取り、使いやすい状態にしておいてください。乾いた布か石けん水をつけた布で本体をふいてください。
- ・使用後は、ガイドバーの溝、オイル穴およびその周辺の切粉を取除いてください。
- ・ガソリン、シンナー、石油類での清掃は本体をいためます。また、本体の水洗いは絶対にしないでください。

●作業後の保管

- ・作業後は、ソーチェンがむき出しにならないようにチェンカバーを取付けてください。
- ・使用後にソーチェン、ガイドバーに付着したチェンオイルや本体内部のチェンオイルが流れ落ちることがあります。ビニールを敷くなどして周囲を汚さないように注意してください。
- ・オイルタンク内のオイルを抜いてタンク内を空にして、オイルキャップが上側になるように本機を置いて保管してください。横にして保管した場合、オイルが漏れます。
- ・高温にならない乾燥した場所に保管してください。
お子さまの手の届く範囲や落下のおそれのあるところはさけてください。



●修理について

- ・本機は厳密な管理の元で製造されています。もし正常に作動しなくなった場合には、お買い上げの販売店にご用命ください。
- その他、部品ご入用の場合、あるいは取扱い上ご不明な点、ご質問などご遠慮なくお問い合わせください。

商品のお問い合わせ窓口

ナビダイヤル **0570-666-787**

受付時間：月曜日から金曜日（国民の祝日、当社指定休日を除く）
9時から12時まで、12時50分から17時30分まで

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い上ご不明な点があった場合には、
ご遠慮なくお買い上げの販売店にお問い合わせください。

※改良のためお断りなく仕様、外観などを変更することがあります。

発売元

京セラインダストリアルツールズ販売株式会社

本 社

〒468-8512 名古屋市天白区久方1-145-1

TEL 052-806-5111 FAX 052-806-5141

<http://www.kyocera-industrialtools.co.jp>



※ リョービ販売株式会社は京セラインダストリアルツールズ販売株式会社に社名を変更しました。